

平成 17 年 7 月 12 日
東京大学 大学院総合文化研究科
教養学部 駒場博物館

特別展「錯覚展—心の働きにせまる不思議な世界」開催のお知らせ

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館では、7 月 16 日より下記のとおり特別展「錯覚展—心の働きにせまる不思議な世界」を開催いたします。

記

【開催要項】

会期 2005 年 7 月 16 日（土）～9 月 18 日（日）
休館日 毎週火曜日
開館時間 10 時～18 時（入館は 17 時 30 分まで）

入館無料

会場 東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館（1 階・美術博物館展示室）
交通 京王井の頭線駒場東大前駅東口下車 徒歩 3 分
住所 〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
電話 03-5454-6139
FAX 03-5454-4929
URL <http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/>

主催 東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 自然科学博物館
東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」
協賛 日本基礎心理学会
株式会社ベネッセコーポレーション
協力 立命館大学 文学部 心理学科
東京大学 教養学部 社会連携委員会

【企画概要】

この特別展は、錯覚という身近な現象を実際に体験することを入り口にし、人の心や脳の働きの仕組みを考えようというもので、主に中高校生を対象とした夏休み企画です。

日常的に錯覚と言うと、「まるで外国へ行ったような錯覚を起こす」のように事実とは異なるが、そうであるかのように思うことを意味します。一方、心理学や認知神経科学の領域では、たんなる思い違いや勘違いにとどまらず、外界の客観的（物理的）な事象とそれに対する心理的な知覚の間のズレを錯覚現象として研究します。

錯覚は様々な感覚で生じますが、今回の展覧会では、静止図形や運動図形に対する錯視と音に対する錯聴のデモンストレーションを来場者に実際に体験してもらいます。とくに、今回は錯視デザインで有名な北岡明佳さんのオリジナル錯視図形作品を多数出展します。その上で、解説コーナーで心や脳の働きについて学んでもらう予定です。赤ちゃんや動物にも錯覚があるのか、どんな文化でも錯覚は共通か、などといった問題にもQ & Aパネルで説明します。

また、8月6日(土)には公開シンポジウム「イリュージョン：錯覚から知る心と脳の働き」を開催します。

大学で実際にどのような研究が行われているかを広く社会に向けて発信することによって、次の世代を担う中高校生に大学合格という直近の目標のさらに先にある、研究の魅力を伝えられればと願っています。

【展示内容】

- ・ 北岡明佳作品（URL: <http://www.ritsumeai.ac.jp/~akitaoka/index-j.html>）
「蛇の回転」他 23 点
- ・ 運動錯視デモンストレーション
(URL: <http://www.fechner.c.u-tokyo.ac.jp/~ikuya/topics/20050623.html>)
ジター残効
運動残効
フラッシュ・ラグ効果
運動誘発性消失
- ・ 錯聴デモンストレーション
マガーク効果
連続聴（URL: <http://ecs.c.u-tokyo.ac.jp/~tkawa/>）

【関連企画】

公開シンポジウム「イリュージョン：錯覚から知る心と脳の働き」

東京大学駒場 キャンパス アドミニストレーション棟3階 学際交流ホール

2005年8月6日（土） 13時～16時

主催 日本基礎心理学会

東京大学教養学部自然科学博物館

協賛 株式会社ベネッセコーポレーション

東京大学21世紀COEプログラム「心とことば—進化認知科学的展開」

入場無料 ・申し込み不要

プログラム

【司会】

・長谷川寿一（東京大学教養学部自然科学博物館）

【主催者挨拶（13：00-13：15）】

・辻 敬一郎（日本基礎心理学会理事長・中京大学）

【I．研究紹介（13：15-16：00）】

・「日本文学からわかる脳の仕組み」村上郁也（東京大学）

・「周辺ドリフト錯視からわかること」北岡明佳（立命館大学）

・「運動錯視について」野澤 晨（日本基礎心理学会）

【II．心理学を学べる大学の紹介（13：00-17：00）】

ブース展示にて紹介

なお、展覧会開催に先駆けて、7月15日（金）午後4時より、駒場博物館一階・美術博物館展示室にて、報道関係者を対象とした展覧会の趣旨説明を行います。当日は、本展覧会を企画した自然科学博物館委員長・長谷川寿一（東京大学教授）、錯視図形制作者・北岡明佳（立命館大学助教授）展覧会出品デモ制作者・村上郁也（東京大学助教授）が会場をご案内いたします。

多用の折とは存じますが、何とぞご来場賜りますようご案内申し上げます。

本件に関する問い合わせ

東京大学大学院総合文化研究科

教養学部 美術博物館

担当：坪井